

## 井内山古戦場と小鴨神社①

長藤の水田の傍に、古い五輪塔が並べられた場所があります。この五輪塔群は、大正一五年（一九二六）に編集された奥津村の写真帳には「井内山古戦場跡」とされ、次のような説明文が書かれています。

「昔、伯耆守小鴨弾正が同国の村尾氏と戦って敗れ、残兵二十余騎を率いて密にこの地に逃れ来れり。井内山に隠れていたが敵は之を知って追撃して来たので、弾正は残兵を指揮して群がる敵軍に割って入り、力戦数刻遂に郎党は悉く打死し、弾正自らも刀折れ

矢尽き、身に数個所の重傷を負ったので、名もない落武者の手に掛るを残念だと血路を開き此所まで逃れ来り、自刎して死んだので村人は其一族と共に同所に葬ったので、以前は約二町四方に亘って五輪塔が散在していたのを漸次開墾し、現在の処に五輪塔を集めたものである。現在でも此所一帯を塚原と呼んでいるのもこれに起因しているのである。」

つまり、この地はかつて伯耆国（現在の鳥取県中部・西部）の小鴨弾正が村尾氏と戦って敗れ、長藤の

井内山に落ち延びて隠れていたところを追撃され、この地で自害して村人に葬られた地だということでした。この話の元になった話と思われる資料としては、『作陽誌』（元禄四（一六九二）刊）に「小鴨伯耆守某墓」の記事があり、これには

「昔日、伯耆の小鴨氏、州の村尾氏と相戦いて敗れ、密かに作州に

来たり。長藤村井内山に隠る。敵知りて遂に兵を率いて逐い来る。是に於て自刎して死す。同村塚原に葬るにその霊数々柁を為す。人此に中れば則ち乍ち瘖啞となる。因りて廟を立てて之を祭る。此の村八幡宮社傍の小鴨荒神是れ其の祠なり。」

と書かれ、ここには小鴨弾正の名はなく単に「小鴨氏」と書かれており、写真帳の説明文は、戦の描写も含め臨場感を持たせるために多少脚色していることがうかがわれます。死までの経緯はほぼ同じですが、『作陽誌』には後日談があり、塚原に葬られた小鴨氏の霊は数々の災いをもたらし、人がこの墓地に入ればたちまち声を出すことができなくなる

ことから、村人は廟を建ててこれを祭ったといい、八幡宮（現在の奥津神社）の傍らにある小鴨荒神がそ

の祠である、とされています。また、「八幡宮」の記事の中にも、「小鴨の靈祠あり」とあり、上記と同様のことが書かれており、奥津神社の境内神社として現在も祀られている小鴨神社は、小鴨氏の鎮魂のために建てられたものだと言われていることがわかります。

また、長藤には石引山古墳（町指定文化財）という、六世紀末頃に築造された径約一五mの横穴式石室をもつ古墳が一基残っていますが、地元には伝わる言い伝えでは、伯耆国から逃げてきた小鴨氏がこの横穴式石室に隠れていたところ、このことを知った追手が小鴨氏を石室の中で焼き殺したという話があり、昭和二年（一九二七）刊の『苦田郡誌』にはこの古墳を「小鴨火釜」と紹介しています。

古くからこの地に残る小鴨氏の敗戦悲話と奥津神社にある小鴨神社、これらの成立の背景には、どのような歴史的な出来事があったのでしょうか。次号で関連する資料をもとに検証してみたいと思います。

参考資料：『作陽誌』『奥津町史』『奥津町の文化財』『奥津町の民話』『苦田郡誌』『奥津村写真帳』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733



長藤の五輪塔群（大正15年）



小鴨神社（長藤）



石引山古墳